

金属団地ニュース





平成30年度金属団地労働衛生大会

「こころと体の健康づくり みんなで進める働き方改革」



安全衛生管理者協議会 会長 小栗 國男

全国労働衛生週間は、昭和25年に初めて実施されて以来、今年で第69回を迎えました。この間、全国労働衛生週間は、国民の労働衛生に関する意識を高揚させ、事業場における自主的労働衛生管理活動を通じた労働者の健康確保に大きな役割を果たして来ました。

労働者の健康をめぐる状況についてみると、過重労働などによって労働者の尊い命や健康が損なわれるなど、深刻な社会問題になっています。そこで冒頭で記述しました今年のスローガンですが、こころとからだ両方の健康づくりを進め、職場で一丸となって働き方改革を進めることで、すべての人が安心して健康を保ちながら働ける職場を目指すことを表しています。

10月1日朝8時30分より、9月20日に行われたプレパトロールでの指摘事項の改善を中心にパトロールが開始され、岐阜労働基準監督署の渡邊主任監督官には、協議会役員と共に、(株)鷓飼さん、(株)豊菱製作所さん、(有)飯尾工業所さんのパトロールに同行して頂きました。



午前10時、組合研修センター 3階集会場にて「衛生大会」がスタートしました。会長挨拶の後、各委員長さんに、委員会ごとに取りまとめたパトロールの結果を発表して頂き、渡邊主任監督官から今回パトロールされた3社の総評、岐阜労働局管内における労働災害の発生状況などのお話を頂きました。また、「危険な作業には、当然 手順書あるいは注意を促す表示などをしますが、作業する人がその内容を理解しているか、なぜそうしなければいけないか、周知徹底することが必要である。」といった話もされました。大切なのはすべての人が安全に対する意識を高めることだと思います。

最後に労働安全・衛生コンサルタントの山岡先生による「製造業の衛生管理」というテーマで講演を頂き無事に大会を終えることが出来ました。

9月後半に発生していた台風24号の接近に伴い開催そのものが危ぶまれていましたが、大した被害もなく大会を迎えることが出来ました。今年に限らず異常気象による被害が年々増加しているように思われます。そういったリスクに対応していくことも働きやすい職場環境を整えることに繋がっていくのではないのでしょうか。

今回の優良事業場として、渡邊主任監督官より、(株)豊菱製作所さんが推薦されました。おめでとうございます。



講師の山岡氏



監督官総評



岐阜労働基準監督署 第二方面主任監督官 渡邊吉徳

日頃より岐阜県金属工業団地協同組合の皆様におかれましては、労働基準行政の推進に格別の御理解・御協力を賜り厚く御礼申し上げます。

岐阜労働基準監督署管内の平成30年9月末日現在の全産業の休業4日以上の労働災害による死傷者数は、473人で前年同時期と比較すると26人の増加、このうち死亡者は2人となっており、前年同時期と比較すると4人の減少となっています。

製造業においては、死傷者数は129人で、前年同時期と比較すると13人増加しており、このうち1人が亡くなっています。また、製造業において発生した災害で、最も多い「事故の型」は、「はさまれ・巻き込まれ災害」です。本年度、岐阜労働基準監督署管内の事業場で、ベルトコンベアのベルト部分を雑巾で清掃中に、腕を巻き込まれて切断するという災害が発生しました。この事業場は、以前にも同様の災害が発生しており、その際にベルトコンベアを清掃する時は治具を使用するよう作業手順書が作成されていました。しかし、担当者が急な退職により作業手順書の引き継ぎがなされず、関係労働者に周知が徹底されなかったため発生してしまいました。作業手順書の形骸化を防ぐためには、どうしてそのやり方になったのか、根拠や理由を説明した上で周知・教育していくことが重要だと思います。

今年度の全国衛生週間のスローガンは、「こころとからだの健康づくり みんなで進める働き方改革」です。

このスローガンの背景に、第13次労働災害防止計画の初年度における取組にあるように、労働者の健康確保対策について「働き方改革実行計画」等を踏まえ、過重な長時間労働やメンタルヘルス不調等により過労死等のリスクが高い状況にある労働者を見逃さないため、医師による面接指導や産業医・産業保健スタッフによる健康相談を労働者が安心して受けられる環境整備を促進するとともに、ストレスチェックの集団分析結果を活用した職場環境改善の普及を図ることとしています。

また、過重な長時間労働を是正するため、本年6月29日に働き方改革推進関連法が成立し、時間外労働の上限規制、年次有給休暇の時季指定義務など労働基準法の改正があり、主要な事項については来年度4月から順次施行されます。ご希望がありましたら、法改正等の説明をするため当署の労働時間相談・支援班が企業に訪問させていただきますので、御連絡をしてください。

さて、今回のパトロールは、3事業場の安全パトロールをさせていただきました。

まず良かった点です。

一つ目は、危険の「見える化」が徹底されていた点です。大きな文字や写真、分かりやすいステッカーを用いる等、見やすさに対する工夫がされていました。

二つ目は、個人別の時間外労働時間数を日々記入しグラフにして工場内に掲示する等可視化し、36協定の上限を超えないよう管理者が指導していた点です。時間外労働を個人任せとせず、管理することで時間外労働の削減に取り組む良い事例だと思います。

皆様の職場でも参考にさせていただきたいと思います。

次に改善をお願いしたい点は次のとおりです。

一つ目は、アーク溶接時の呼吸用保護具（防じんマスク）が徹底されていなかった点です。じん肺は不可逆性の病変を起こす疾病で、回復させる有効な治療方策はありません。ですから、粉じんの暴

露防止が最重要となります。第9次粉じん障害防止対策に基づき、保護具着用管理責任者による防じんマスクの使用徹底や、作業従事者に対し、じん肺に関する予防や健康管理のための教育を行うことが重要です。

二つ目は、安全装置の取り付けられていないプレスブレーキが使用されていた点です。プレス機械による災害は手指の切断や挫減など重篤な結果を引き起こす可能性があります。プレスブレーキ用レーザー式安全装置等の使用の徹底をお願いします。

以上、これからも安心・安全・快適な職場でありますよう安全衛生活動に御尽力いただきますようよろしくお願いいたします。



10月度月例会開催

10月15日(月)の正午より、10月度月例会が開催されました。今回は講師に岐阜県中小企業人材確保センターより岐阜県プロフェッショナル人材戦略拠点 統括サブマネージャー 酒井則雄氏と企業支援グループ 企業チーム 企業アドバイザー 細江克仁氏にお越しいただき、『企業戦略は、人材戦略から～人材確保が難しい今だからこそ、積極的に良い人材を確保する為の手段・方法を勉強する会～』をテーマにご講演いただきました。



新入社員フォローアップ研修

平成30年10月9日(火)・10日(水)9時から12時まで、組合研修センター3階にて、「新入社員フォローアップ研修」が行われました。講師に経営コンサルタント・中小企業診断士の澤芳美氏をお迎えして、新卒社員を対象に8社17名の参加を得ることが出来ました。澤芳美の成功塾「実力を決めるのは行動力の差である」と題して、入社後仕事を通じて体験したことを整理するとともに、現状における課題の認識、仕事の上手な進め方・取り組み方等をレクチャー方式とバズセッション方式で学びました。参加者の積極的な取り組みに澤先生も感心し、今後の成長と活躍を期待して研修を終えました。

金沢市工業団地連絡協議会来組

10月12日(金)に、金沢市工業団地連絡協議会より24名が見学におみえになり、今井理事長以下事務局2名で金属団地の歴史、事業内容、現在抱える問題点などご説明をさせていただきました。





安心第一

現在電話用としてiphoneSEを使っている。当時は6Sもあったのだがズボンのポケットに入れるには大きすぎるのでSEにした。データ通信用には7PLUSの大画面モデルを使っており、老眼持ちとしてはこちらも手放せない。右手人差し指をクルクル回しながら左手では電話するスタイルは大変便利です。

SEを使い始めて2年半が経過し流石にあちこちがくたびれてきたので後継モデルのSE2には期待していましたが、残念ながら発売されないようです。もう諦めてデカイiphoneに変えようか？もしくは1台に集約してしまおうか？と何度も考えましたが、やはり1つには出来ません。それぞれに良さがあるから…

思い返してみると2つ所有している物は結構ある。例えば車。スポーツカーとSUVで気分や目的に応じて使い分けています。腕時計も2つ。アナログ式とAppleWatch。これも目的に応じて使い分け。よく着る服も2つだし、よく履く靴も2つ…あれ？よくよく考えるとこの原稿を書いている手も左右2つ、目も耳も、鼻は…穴2つだ！股間にぶら下がっている物も2つ。気になったので調べてみた。

諸説いろいろ有ったが一番納得できる説は「障害対策」です。重要な機能を持つ器官が何らかの原因で損なわれてしまった場合に、予備があれば完全に機能停止せずにすむ、という説明です。1つの器官の故障率が0.1だとした場合、2つ用意しておけば、サービスが停止する確率(=両方とも器官が損傷する確率)は、0.01となり、ぐっと減少します。3つなら0.001にまで低下する。器官一つだけの場合よりずっと高い信頼性が得られるわけです。同じ機能を持つ部品を複数用意して、システムとしての可用性を高める設計を、ITの分野では冗長化(クラスタリング)と呼びます。

そういえば来月はサーバーの入れ替えで同じ構成のものを冗長化目的で2台買っていた。会社にある物も見渡してみると2つ以上あるもののがかなりある。「障害対策」といえばそれまでだが経済合理性は全くない。1つあれば十分だからだ。仕事柄、工具をよく注文するが1本で良い所を必ず2本注文してしまう。なぜ倍の金額を払って自分は同じ物を2つ買ってしまうのか？「もし折れたらまた買わなきゃいけないし納期が遅れるし…どうせまた使うから大丈夫だ」大体こんな心理です。実際サーバーも5年間で1~2回故障して停止するし、工具も5回に1回程度は折れます。

「安全第一」は製造業では最優先ですが、「安心第一」というのが人間の本質だと改めて感じます。しかも無意識でやっていて経済合理性も全くない。生物学的本能なのか進化の過程でそうなったのか理屈では説明できませんね。iphoneどうするか悩む必要はもうありません。中古のSEをもう1台買っておけばよいのです(笑)

そろそろ年の瀬が迫ってきました。来年の抱負は「冗長化」にしようと思います。お客様の無意識に訴える作戦で売上アップ！決め台詞はこうだ

「どうせなら最初から2つ作りませんか？2つ作ると割安ですし、量産中に修理も可能です。もしもの時に生産に支障が出ず安心できますよ！」

赤い彗星



青年中央会視察研修事業に参加

10月22日(月)、岐阜県青年中央会の視察研修事業に青年部会員2名が参加しました。視察先は郡上市美並の株式会社ROBOZ、国内最大規模のドローン専用飛行場を備えた、ドローン操縦訓練施設です。昨今首相官邸に墜落したりお祭り会場で複数人がけがをしたりと、世間を騒がせているドローンですが、実際に操縦の経験をしたことがある人は日本にはまだほとんどいないと思います。今回はROBOZ代表取締役の石田社長に、ドローンに関する法律などの基礎知識や、ドローン活躍の現状と未来を語っていただき、その後ドローン操縦体験をさせていただきました。私個人はテレビゲーム世代ということもあり、操縦そのものは意外と単純だなという感触でした。200グラム未満のドローンは、現在の日本の法律ではほぼ制限なくどこでも誰でも飛ばせるとのことで、少し興味がわきました。

ちなみに、ドローンレースという競技が現在世界中で行われており、オリンピック正式競技化の動きも進んでいるそうです。ドバイで行われる世界大会は賞金総額1億円以上。スポンサーもどんどん集まっているので今後さらに賞金が増える可能性もあります。ドローンレース自体はまだ歴史が2年ほどしかないので、今からドローンデビューしてもパリオリンピックには充分間に合うんだとか。ドローンで岐阜から世界を目指してみませんか？



岩井新社長就任祝賀会

去る10月5日に金属工業団地青年部で三星工業株式会社の岩井康志君の社長就任祝賀会を行いました。我々青年部会員数は現在13名。全盛期と比較するとその数は約半分となり、活動のサイズ感は年々小規模になってきているのが現状です。しかしながら、今までの取組みで培った経験とチームワークで実に仲良く日々相互研鑽しています。そのような中で今回も仲間の新たな門出を祝える事はとても嬉しく、出席率もほぼ全員参加となりいつもの如く大変盛り上がりました。祝賀会ではあったのですが話題は、不透明なこの時代だからこそ、世界経済の事、会社の将来の事、社員の事、家族の事・・・実に多様で充実していました。最後に、今回の主役である岩井新社長から新たな門出における誓いと感謝が述べられ、企業は違えどこの変化の大きな時代を共に生き抜く仲間との「和」を再確認し、会は盛況のうちに終宴となりました。岩井新社長、就任おめでとう！



設備更新 株式会社高橋铸造所

8月のお盆休みと絡めて16日間製造ラインを止め、全自動サンドミルとショットマシン2台の更新を行いました。皆様には交通規制などで、御迷惑をお掛けし申しわけありませんでした。

サンドミル(造型用の砂練りミキサー)は、「太洋マシナリー製」の「キングミルKM-30」で、時間あたり23トンの造型砂の供給能力があり、旧設備と比較して25%の能力アップになります。同時にCBコントローラーの付帯により、砂練り作業の無人化と事務所での造型砂のデータ管理が可能になりました。これにより、製品品質の安定化と人件費1.5人分のコスト削減ができました。

ショットマシン2台は、「伊藤機工製」の「バレル式ショットブラストマシン ITB-60-45-TA」、「クレーン式ショットブラストマシン ILH-17-TA」です。旧設備では、型式が古く細かい設定が出来ないことや機械の老朽化もあり、ショット玉の使用量が多かったのですが、今回その使用量を半減することが出来ました。試算では年間数百万円のコストダウンになると思います。また、作業時間も20%程度低減出来ています。

さらに、作業環境の改善と言うことで新しく導入したショット機にはダストレキサーを導入しました。これは集塵したパン粉をスクリーンで水と混ぜながら粘土化し、粉塵がたたないように排出することが出来るものです。

次世代の鋳物屋をめざし、ここ5年ほど自動造型機や電気炉をはじめ、設備の更新を積極的に行ってきました。新設備による省力化や作業環境の改善により、社員さんの新規採用の質を高めるとともに定着率のアップをはかり、現在の課題である人手不足を何とか乗り越えて行きたいと思います。

今後、自硬性設備の刷新や事務所の建替え及び仕上げ場の移動で、後処理作業を効率的に行える設備を今後2～3年かけて行う予定です。

まだまだ道のりは遠いですが、当社が目標としている「日本一きれいな鋳物工場」を目指して、今後もさらに進んでいきたいと思っています。



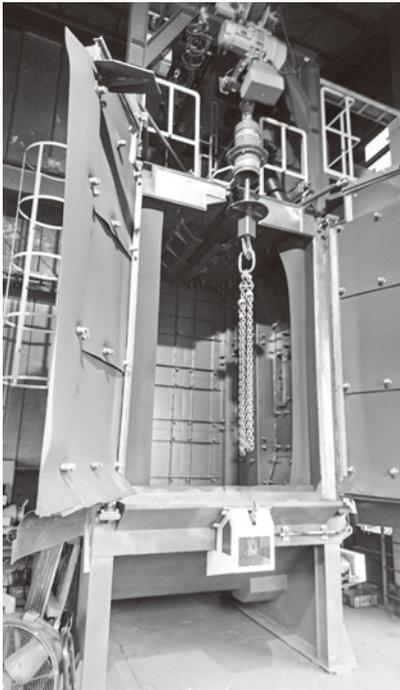
キングミル



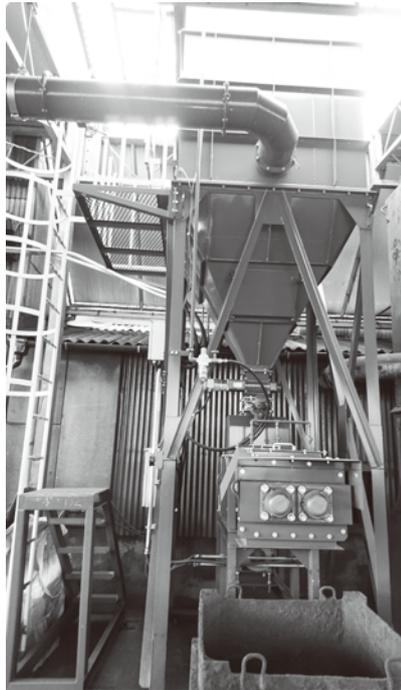
CBコントローラー



バレル式ショットブラストマシン



クレーン式ショットブラストマシン



ダストレキサー付集塵機



ショットマシン・集塵機操作盤

情報ファイル

人口減少・少子化のなかでの“新規学卒等採用達成”のために その3

岐阜県金属工業団地近隣の“理系教育機関”の紹介

先月号では、岐阜県金属工業団地近隣には多くの理系教育機関が所在していることを紹介させて頂きました。今月は、この理系教育機関の“社会人教育”の取り組みについて紹介させて頂きます。

■株式会社 ブイ・アール・テクノセンター（各務原市テクノプラザ1丁目1番地）

（株）ブイ・アール・テクノセンターは、頭脳立地法（地域産業の高度化に寄与する特定事業の集積の促進に関する法律）に基づいて1993年に設立された第3セクターで、バーチャルリアリティ技術を活用したあらゆる産業の高度化を目指し、VR関連技術の中核施設として製品企画開発、共同研究、人材育成をはじめとして地域情報化、雇用創出など幅広い事業を展開しています。

※各務原市HP「ものづくりナビ」より

航空機産業人材育成講座からCAD講座、ヒューマンスキルアップ講座まで多様な講座が準備されています。講座受講料の3分の1を県が補助、各務原市内企業には更に市から3分の1の補助があります。

■岐阜県成長産業人材育成センター（各務原市テクノプラザ1丁目21番地）

岐阜県成長産業人材育成センターは、産業団地テクノプラザ内のアネックス・テクノ2にある成長分野を中心とした岐阜県の人材育成拠点です。航空宇宙、医療福祉機器等の成長分野を中心に、技術者育成のための研修や専門知識を学ぶセミナー等を開催しています。また、人材育成をはじめ様々な

成長分野等の支援に関する相談に対応する他、センターの研修室を各種人材育成活動の場として提供しています。同センターでは、「岐阜県成長・雇用戦略」において成長産業と位置付ける分野の研修・セミナーを実施しており、県が主催する研修のほか、(株)ブイ・アール・テクノセンターによる航空宇宙分野の技術者育成研修等も実施しています。また、多目的に利用できる16人～150人規模の研修室を備えており、技術者・技能者の育成、新規参入に向けた社内体制の整備(技術者・有資格者の育成など)への取り組み、新たな事業展開のための研究開発(研究者育成)など、成長分野等における各種人材育成活動の場として利用することができます。

※岐阜県公式HP：産業・農林水産・観光；商工業；産業人材育成より

■岐阜県職業能力開発協会：マイスターステーションぎふ(各務原市テクノプラザ1-18)

高度な技能をもった熟練技能者が「ものづくりマイスター」として認定され、中小企業や学校等に指導者として派遣されて実技指導、講義等を行います。機械加工や機械検査、金属熱処理、機械保全、電子機器組み立て、ダイカストなど100を超える職種に対応しています。また、ものづくりマイスターの派遣に掛る経費及び研修に係る材料代については、2,000円を上限にマイスターステーションの負担となっています。

■岐阜県立国際たくみアカデミー短期大学校(美濃加茂市蜂屋町上蜂屋3545-3)

岐阜県商工労働部が設置している、ものづくりに関する実践的な技能・技術や専門知識が学べる総合的な“教育訓練機関”です。在職者訓練としての「能力開発セミナー」の開催にも力を入れており、同アカデミーが企画して公募する【レディメイド型】セミナーとして、新入社員から主任クラスまでを対象とした“人づくり系・製造業系・建設業系”などの講座や、企業の依頼により実施する【オーダーメイド型】セミナーまで多様な講座を実施しています。企業の生産現場に合わせた「ムダ取り」セミナーや「品質管理」セミナー、フライス盤作業などの技能検定取得を目指した技能向上セミナーなど、多様な企業のニーズに対応して頂けます。同アカデミーが実施する能力開発セミナーの受講料は“無料”となっています。

■中日本航空専門学校(関市迫間1577)

航空技術者の教育機関である中日本航空専門学校は、航空機製造技術、電子制御技術などの教育のノウハウと豊富な教育機材・設備、経験豊かな教授陣を、企業の社員研修・訓練に提供することで、業界発展に資するために「社会人教育」を行っています。企業の社内研修の一環としてや基礎技術のレベルアップの場として、企業ニーズに合わせた多彩な教育カリキュラムを提案して頂けます。講座受講希望の場合には、産学官連携センター(TEL:0575-24-2511)までお問い合わせください。

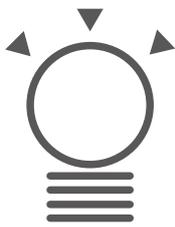
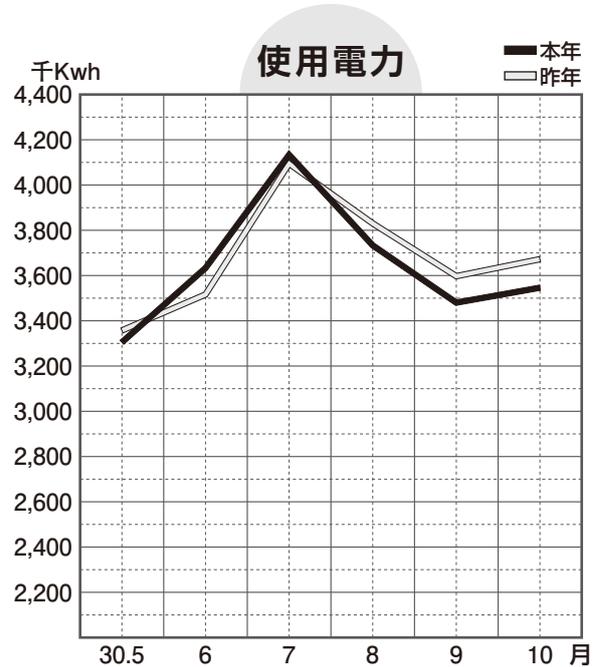
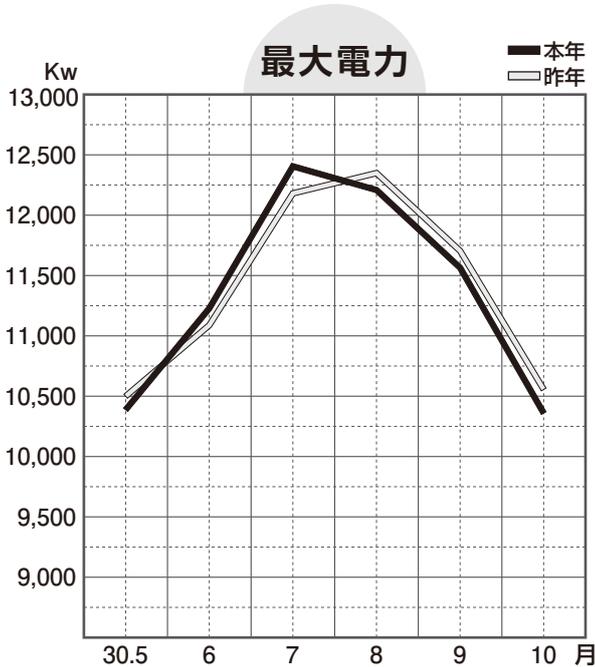
このように、岐阜県金属工業団地近隣には従業員の研修や教育の場として利用できる理系教育機関が多く存在しています。企業所在地から車で1時間以内の場所に、これだけの理系教育機関が集積していることは各務原市の魅力です。従業員のスキルアップに活用されることをお勧めします。次号では、これらの理系教育機関が実施している研修講座の受講を“新規高卒求人活動に活用するための仕組みづくり”について提案させて頂く予定です。

(文責：各務原市産業活力部商工振興課企業人材全力応援室長 長屋千秋)



お知らせ

平成30年10月分電力使用状況



電気は正しく使いましょう!!

アースの必要性

接地（アース）とは、電気設備機器や電路と大地を電氣的に接続することです。

接地（アース）が使用されている身近な例は、洗濯機や電子レンジなど家電製品の接地（アース）がありますが、これらは感電防止のため設けられている保安用接地です。

この保安用接地は、電気製品が正常であれば特に必要としませんが、電気製品の漏電や過電圧がかかった時、そこに接地が無かったために電気製品が壊れたり、ひどい時には火災を招いたり死亡に至るケースさえあります。

感電が人体に与える影響は、20mA以上の電流が人体に流れると、筋肉が収縮して動けなくなり、50mA以上の電流が流れると筋肉が硬直し呼吸困難となり、100mA以上の電流では心臓等に致命的な障害を起し、死亡する可能性があります。

人体の抵抗値は約10KΩで、水や汗に濡れた状態では、400Ωになり、通常の25分の1まで下がります。この状態で家庭用電源100Vに感電すると、デッドゾーンである250mAの電流が流れます。

接地は、いざという時に私たちを守ってくれる重要な役目を果たします。

行事予定

2018 **11** November

16 金	組合員親睦旅行(～17日)
17 土	『組合休日』
18 日	
19 月	
20 火	県職業能力開発促進大会
21 水	
22 木	
23 金	『勤労感謝の日』
24 土	団地G 『組合休日』
25 日	
26 月	月例会
27 火	理事会並びに役員交流会(県中小企業団体中央会) 平成30年度情報交流事業(ぎふITものづくり協議会) 役員会
28 水	一般工業部会視察研修(各務原商工会議所)
29 木	
30 金	

2018 **12** December

1 土	『組合休日』
2 日	
3 月	
4 火	
5 水	
6 木	第2回組合女性事務局懇談会
7 金	
8 土	『組合休日』
9 日	
10 月	
11 火	
12 水	
13 木	安全衛生優良企業視察と反省会
14 金	
15 土	団地G 『組合休日』

■ 今後の行事予定

12月17日(月) 月例会・役員会
1月8日(火) 新年互礼会

■ 10月度金属団地ゴルフ会

10月20日(日) 関ヶ原カントリークラブ
優勝 今井哲夫(今井航空機器工業) 2位 鈴木純一(豊菱製作所) 3位 林宏守(中日鋼線)

<http://www.g-mecca.jp>

G-MECCA

GIFU METAL ENGINEERING COMMUNITY COOPERATIVE ASSOCIATION

